

令和5年度 第3回 井伊谷小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年2月9日（金） 午後2時30分から午後4時30分まで
- 2 開催場所 井伊谷小学校 音楽室
- 3 出席委員 安戸 哲弘、高林 幸子、中村 朋子、田力 弘美、永田 琢也、
中野 正雄、市川 秀樹、齊藤 啓一
- 4 欠席委員 なし
- 5 学校支援コーディネーター 永野大成
- 6 学 校 石野 政史（校長）、小山 貴広（教頭）、大浦 幹夫（CS担当）
山下いづみ（CSディレクター）
- 7 教育委員会 なし
- 8 傍聴者 なし
- 9 協議事項

- (1) 令和5年度学校関係者評価について
- (2) 令和5年度学校運営協議会の自己評価について
- (3) 令和6年度学校運営の基本方針について
- (4) 井伊谷小学校いじめ防止等のための基本方針について

- 10 議 長 高林 幸子委員
会議録作成者 CSディレクター 山下いづみ

11 会議記録

○会長のあいさつのなかで、3年間の学校運営協議会の活動意義について説明があった。校長あいさつの中では、今年度同様、今後も本校の学校運営についての熟議に重点を置くと説明があった。

○司会の大浦CS担当から、委員総数9人の出席があり、過半数を超えているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 令和5年度学校関係者評価について

令和4年度学校評価の反省点をふまえて、本年度は目標と評価の一体化を図るよう留意したと大浦担当から説明があった。

資料2「学校評価」については数値が達成率70%以下の項目を全職員で分析したと説明があった。項目3「自分や友達のよいところや頑張っているところを見つけることができる」についての方策は、キラキラカードの取組を教員が価値付けし、子供自身が取り組んでいることに自覚と自信をもたせるようにする。項目8「進んで本を読むようになってきている」の方策は、担任による読み聞かせ、本を借りる時間の確保、並行読書の推進により本と触れ合う機会を作るようにする。この2項目に対する取組を3学期から始めており、来年度のグランドデザインへ反映させアクションプランを策定し全職員で共有していくと説明があった。

委員からは以下の質問、意見があった。

- ・キラキラカードは児童から先生にもあげているのか（安戸会長）

- ・ 教員ももらっている。(大浦)
- ・ キラキラカードは本人だけではなく、幅広く他の子の視点も紹介していくことも良いのではないか。(市川委員)
- ・ キラキラカードがマンネリ化している感はないか。苦手なところに気持ちが向いていかないように自己肯定感を高めてゆけるものはないか。(高林委員)
- ・ 全国学力学習状況調査等の結果から、本校は自己肯定感が高い傾向にあり、キラキラカードの効果は出ている。(校長)
- ・ 評価65%ではだめなのか、どこに目標を置いているのか。(松井委員)
- ・ 達成状況A(達成率80%以上)を目指している。(大浦)
- ・ 3点(10項目)を見比べてみるとまずまずの合格点なのではと思う。しかし読書の肯定的回答が少し低いのは気になる。(中野委員)
- ・ ICTと読書は両極にあり、これからますます情報活用能力は高まるのだから、読書は現状維持するくらいでトータルバランスが取れていればよいと思う。文字から離れている現状を見ると将来的に見ても難しい状況だと思われる。キラキラカードがマンネリ化するというのは逆に良いことなのではないか。大人になっても「ありがとう」と「ごめんなさい」をすんなりと言えることは大切である。(永野委員)
- ・ 読解力は国語だけでなく算数などでも必要であり、本に親しむことは、発想を膨らませる上でも必要である。(校長)
- ・ 並行読書とは何か。(安戸会長)
- ・ 授業で学んだことの視点で本を読んでいく。教科書教材と関連させて本を読むことを位置づける指導上の工夫のことである。(大浦)
- ・ 読み聞かせだけでなく、自分で本を読むこと、手元に置いて読み返すことも大切ではないか。(中村委員)
- ・ 朝活動(15分)で週4日読書をしている。(大浦)
- ・ 幼稚園、保育園との連携はあるか。(永田委員)
- ・ 読書の連携はないが、今後考えていく点だととらえている。(校長)

○資料3「いじめ防止等のための目標、取り組み内容、達成状況」について校長から説明があった。相談体制(相談しやすいか)について評価の値が低い結果について委員からは以下の質問、意見があった。

- ・ 1対1の相談の場をつくるのが大事ではないか。(中村委員)
- ・ コロナ禍にあって難しい状況だったが、来年度より4月の教育相談を実施していく。(校長)
- ・ 浜松市の平均値より低いのはなぜか。(安戸会長)
- ・ 抽出した学年が5年生ということで学年の特性が出たかもしれない。別表に見られるように、高学年になると友達に相談するという場面も増える。(校長)
- ・ 先生と児童、保護者との距離感が難しい時代であると思う。先生と距離が近くないだけで親とは離れていないのではないか。(永野委員)
- ・ 子供と親の関係性は高いと思われる。(校長)

- ・保護者と先生がどれだけ話をできるかが大きい。(中村委員)
- ・保護者と先生が近づけば、子供たちの距離も近くなるのでは。(永野委員)
- ・いじめに関してだけでは相談しにくいのではないかと。先生との関係は良好なので、事を大きくしたくないと考えて相談しないということもあるのではないかと。(中村委員)
- ・先生に相談するだけでなく、友達で解決していくことも大切ではないかと。(安戸会長)
- ・いじめについては、だれかに相談することが解決第一の行動だと子供たちに知らせたい。また相談体制の強化も図っていききたい。(校長)

(2) 令和5年度学校運営協議会の自己評価について

本年度の目標を踏まえて、熟議の中で意見のとりまとめをしていくと教頭から説明があった。

委員からは以下の意見があった。

<評価項目1>

- ・学校運営の基本方針について学校側から十分な説明があり、話し合ったことが反映されていて十分に熟議することができた。

<評価項目2>

- ・地域の人材活用を実情に合わせて行っていて、グランドデザインにも反映されている。
- ・運営協議会の案を受け入れていくことで、保護者の理解を得ることに繋がった。

<評価項目3>

- ・学校運営協議会そのものを保護者、地域に周知徹底していきたい。ホームページや学校ブログでの情報発信だけでなく、本校に合わせた方法を考えていきたい。

<評価項目4>

- ・学校と保護者、地域との間をつなぐ立場に立って、委員が学校運営について説明できるようにする。
- ・運営協議会が意見を述べるだけでなく、学校側も協議会を利用して、保護者と地域のつながりを効果的に進めていく。

(3) 令和6年度学校運営の基本方針

- ・資料6「令和6年度井伊谷小のグランドデザイン」について、校長から説明があった。「ねばり強く取り組む子」を土台として「学び合う子」「認め合う子」「きたえ合う子」を目指す子供像とし、学校目標「井の国で心豊かにたくましく伸びる子の育成」に取り組む。
- ・資料7「令和6年度井伊谷小アクションプラン」について、何をやるかを「見える化」し、子供と保護者に説明できるようにしていく。

(4) 井伊谷小学校いじめ防止等のための基本方針について

- ・配布資料は2月のPTAの理事会で説明をしたものである。今回の熟議を経て3月末にホームページに掲載予定、4月に保護者に説明する。

(5) その他報告事項

- ①夢育やらまいか事業報告

・夢育やらまいか事業（CS加算分）報告書について、教頭から説明があった。

②令和6年度学校運営協議会について

次回会議は、令和6年4月26日（金）午後2時30分から開催する旨の報告があった。運営委員の任期3年の規定により、半数の委員が改選となることの説明があった。